

あそび×まなび「学校にプレーパークがあったら起きる素敵なこと」

昭島市

プロジェクト実施者 昭島市立光華小学校 学校サポートチーム「あそびまくり」

実施日時

令和6年 11月25日(月) 13:30～16:00
令和6年 11月26日(火) 13:30～16:00
令和6年 11月27日(水) 13:30～16:00
令和6年 11月28日(木) 13:30～16:00
令和6年 11月29日(金) 13:30～16:00
令和6年 11月30日(土) 9:00～16:00

実施場所

昭島市立光華小学校（校庭南側）

プロジェクト概要

学校の中にあるプレーパークを拠点にしたプロジェクトです。プレーパークという「場に働きかける」展覧会（図工）やこども町づくり（総合）、プールを活用しためだかパーク（理科）など、子供たちの「やりたい！」を実現します。

イベント詳細

公立小学校内に昨年できたプレーパーク！子供たちの「やってみたい！」気持ちに寄り添い、自由な発想で遊んで楽しめる遊び場＝プレーパークが誕生しました。子供たちが企画した遊びに加え、自分達で育てた作物を焚き火で焼いて食べたり（生活・総合）、場に働きかける造形遊び（図工）、廃材を使用した音づくり（音楽）など、あそび×まなびが融合し、遊びながら学ぶことで、子どもは真の主体性を発揮します！今年は、使われなくなったプールに、専門家と子供たちでメダカと水草を放流し「メダカニコニコパーク」を作りました。子供たちが自由に、メダカや水生植物が育つ様子を見ることができます。また、学校の大きな木の下には、保護者・地域・子供が共同でウッドデッキを制作中です。ロープ遊具に挑戦したり、思いっきり遊んだあとに、木陰で休憩できるスペースをつくりました。「学校にプレーパークがあったら起きる素敵なこと」がたくさんあります。ぜひ遊びにきてください！

プロジェクトへの想い

私たちがこのプレーパークに懸ける思いは、「子どもたちにどんな力を身に付けてもらいたいのか」という思いに直結します。すなわち『agency（社会を変革する力）』の育成です。これからの日本の社会は、おそらく今より厳しい状況が予想されています。子供たちには、その社会の中で生きていく力が求められます。正しい知識を正しくアウトプットできること、準備されたフレームの中で思考判断させてきたこれまでの教育の枠を越えていく必要があると、私たちは考えます。だからその「プレーパーク」です。子供自身の「やってみたい！」を最優先する。ケンカもトラブルも含めて、何度失敗しても大丈夫。そんな学校でありたいのです。



あそび×まなび「学校にプレーパークがあったら起きる素敵なこと」

子供の感想

- ・小学3年生：メダカパークでいろいろな人がたのしんでいてみるわたしもたのしくなった。
- ・小学3年生：ファイヤーピットは、あんまり家でもイベントでもやらせてもらえないから学校でできるのがたのしい。学校がおわってからそのままランドセルをおいてあそべるのがうれしい。
- ・小学3年生：ともだちやほかのがくねんの人もあそべてたのしかった。
- ・小学4年生：ハンモックがとくにたのしくていつまでもあそんでいられそうでした。
- ・小学5年生：友達ともふれあう時間が増えたきがしました。プレーパークならではの友達とのふれあいがあるので楽しかったです。
- ・小学6年生：思ったよりたくさんの人が遊んでたりして6年生が作った物とかでも遊ばれていてうれしかった。



保護者の感想

- ・普段できないような遊びを思い切り楽しむことができとてもよかったです！ぜひ市内の他の小学校にも来てほしいです。
- ・校庭プレーパークが全国に広がって欲しいと思いました。校長先生が凄い！
- ・多くの学校で取り組んで欲しいです！東京都の方針というような規模で動けば、全国も動くと思います。
- ・学校は楽しいところだ！と思えることは、社会問題になっている不登校の解決に繋がるのではないかと考えています。
- ・家庭では体験できないことを楽しめてよかったです。
- ・昭島市生まれ・育ちです。泥んこ、自主的に遊びに参加する、たき火をする、小さな子を見守る、多面的にみても素晴らしい活動内容に感動しました。
- ・わたしは子供を別の小学校に通わせていますが、ぜひぜひこういった自由に遊べる空間を作って欲しいと切に願います。
- ・子どもにとって「あそび」が重要であることをもっと社会的にも認知してもらえるように頑張りたいです。
- ・結局、子どもの遊び場は地域の認知や予算がないと、継続的な開催や運営につながりません。とにかく社会がこどもの場作りの重要性を認識し、子どもへの（子どもに関わる従事者なども含めて）プライオリティを高めていけるきっかけになってほしいです。



主催者の感想

昨年度と今年度、学校の校庭にあるプレーパークを通して、子どもたちに「agency（社会を変革する力）」を付けてほしいと取り組んできました。子ども自身の「やってみたい！」を最優先する。ケンカもトラブルも含めて、何度失敗しても大丈夫。今年度は、新たに水生園やウッドデッキを、地域や保護者の協力を得て子どもたちと作りました。理科や生活科、総合的な学習の時間や図工の授業の中でプレーパークを活用した学びも定着しつつあり、学校にプレーパークがあることで、遊びと学びの掛け算が生まれる可能性と手ごたえを感じました。また、プレーパーク運営を継続していくため、保護者や地域を巻き込むことにも意識的に取り組みました。子どもたちが楽しむプレーパークを見守ってくれる、教師でも親でもない大人の存在は、子どもたちとナナメの関係でつながっていて、その存在が学校の幅を広げてくれるようにも感じます。これからも子どもたちの「やってみたい！」を実現する遊びの場づくりと、プレーパークを通して地域とつながる学校づくりを続けていきます。